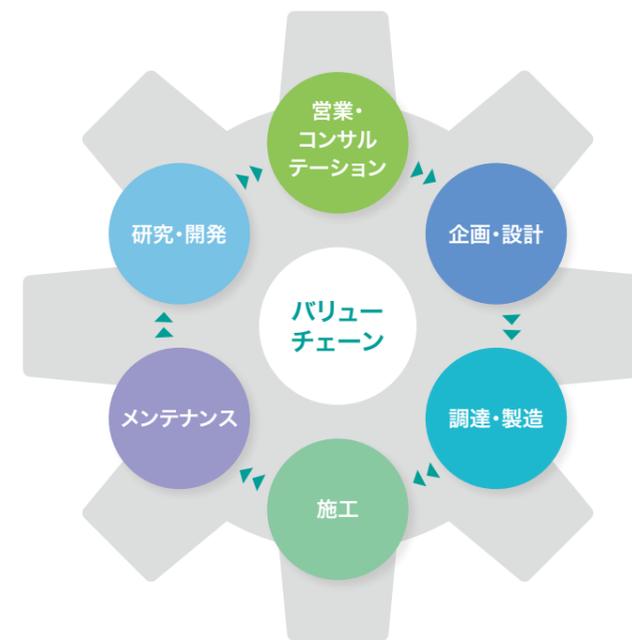
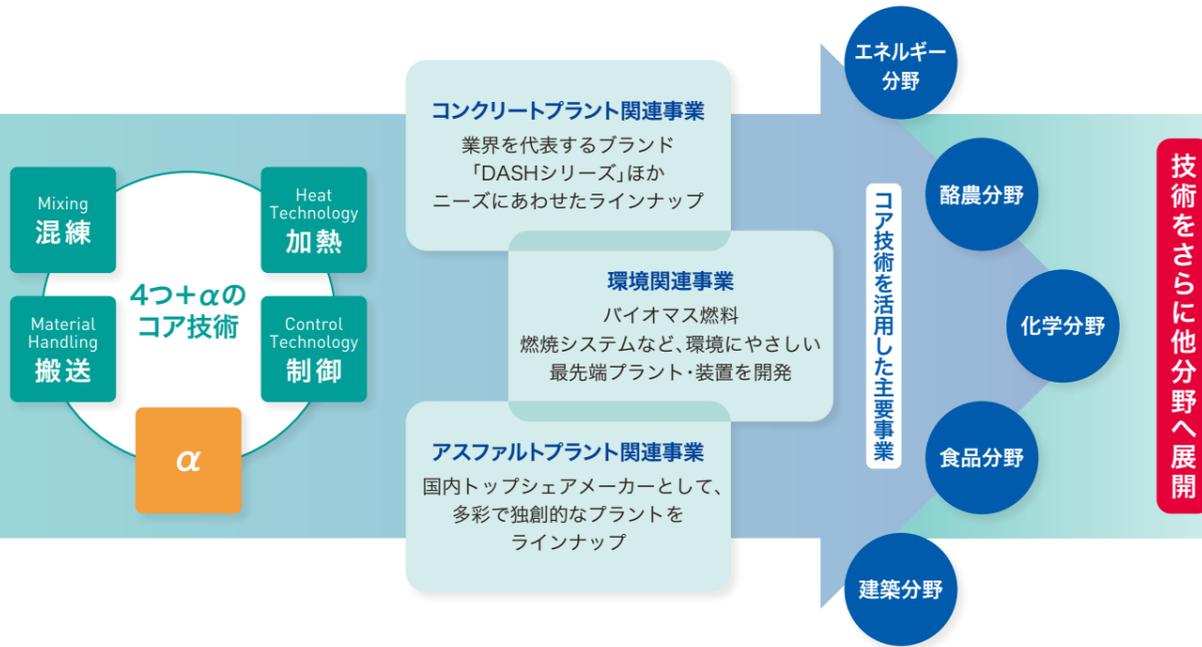


日工グループはお客様第一主義を企業理念とし、お客様に真に満足いただける製品とサービスを提供するとともに、広く社会から信頼され、お客様とともに発展するソリューションパートナーとなることを使命としています。

2030年のビジョンを実現するにあたり、バリューチェーンを始めとする価値協創基盤の強靱化は重要と考えており、混練、加熱、制御、搬送の4つのコア技術とともに、これを磨き続けていく必要があると考えています。

価値提供基盤	2030年ビジョンを実現するための			価値提供基盤の強靱化策		2022年度評価
	INPUT (経営資源)	2030年に目指すべき姿	対処すべき課題 (短期、中長期)	対応策 (短期、中長期)	進捗・見通し	
研究・開発 川村部長 	<ul style="list-style-type: none"> 研究開発費：7.5億円 開発部門エンジニア：28名 お客様、外部機関との共同開発 4つ+αのコア技術(乾燥・混練・搬送・制御)+計測 	<ul style="list-style-type: none"> 低炭素化製品・環境対応製品の本格実装 AI、IoT技術を活用した自動化製品の実装 環境関連装置の横展開 	<ul style="list-style-type: none"> コア技術継承、発展のための人材育成 脱炭素化に向けた短期、中長期の製品開発 環境関連装置開発の基盤づくり 社会実装数増加に向けた開発速度の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 2022~2024年度の研究開発費25億円(2.1倍) 2022~2024年度の開発人員12名採用 人材ローテーションの積極実施による育成 お客様や大学など外部機関とのオープンイノベーション推進 製品開発ロードマップの更新とリソース再配分 製品化に特化したチームの創設と運用開始 	<ul style="list-style-type: none"> 人材ローテ2名実施 2021→2022年度 新卒2名増 外国人技術者1名増 共同研究・開発 6件実施中 製品開発ロードマップの半期毎の更新 	○
営業・コンサルテーション 中山本部長 	<ul style="list-style-type: none"> マーケティング部門の新設 グローバル化への組織対応 過去、未来のデータ活用 工場全運営のサポート 	<ul style="list-style-type: none"> 低炭素化の環境製品の提供 遠隔、自動化で製品+運用まで提供 アジアNo1メーカーを目指す 	<ul style="list-style-type: none"> 環境製品の開発 工場運営のノウハウ取得 海外パートナーの取得(代理店) ASEAN市場拡大 発展領域を担う人材育成 	<ul style="list-style-type: none"> 新製品展示会の実施 客先との協業(開発、教育)の実施 海外企画部門を設置し製品、パートナー獲得への支援 日工本体にASEAN事業戦略室設置しタイ現法(NAT・NIC)とのシナジー追求 新卒採用の拡充 業界団体へ加入し環境対応製品の更なる斡旋 	<ul style="list-style-type: none"> 新製品展示会2022年11月実施 客先との協業:相互教育を目的に当期実施 タイとベトナムそれぞれ1社総代理店契約締結 サプライチェーンの見直し、リサイクルAP市場獲得を狙う GM1名、海外2名(営業1名、カスタマーサポートセンター1名) 道建協に賛助会員として加入 	○
企画・設計 上原統括部長 	<ul style="list-style-type: none"> 顧客ニーズに応えるスキル・技能集団 コア技術(混練・加熱・搬送・制御) プラント設計のノウハウ蓄積、技術基盤 技術設計パートナー会社との協働体制 	<ul style="list-style-type: none"> プラントのソリューションプロバイダ お客様と社会の双方に価値を生む企画提案 遠隔、自動、省人化のトータルサポート グローバル標準製品の海外展開 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な人材採用、育成によるナレッジワーカーの増強 客先ニーズに対応できる標準コア製品の充実 品質、安全、環境対応における顧客満足度の向上 顧客の要求に沿った、適正な製品提案と納期対応 設計の効率化と新規事業発展領域へリソースの移行 	<ul style="list-style-type: none"> 2022~2024年度の技術者採用+35名 標準化の推進と付加価値の高い製品の開発 営業、メンテナンスと共有したエンジニアリング体制を構築 グローバル機種の再編と開発、海外生産に対する技術的関与 アウトソーシングと業務デジタル化の推進 	<ul style="list-style-type: none"> リソースへの積極投資、東西拠点に技術者配置 新型ブロック式プラントを完成。標準化率70%更なるシリーズ拡大に向けて展開 設計品質の管理を担う組織及びエンジニアリング体制の構築 海外専任チーム立上げ、海外展開に向けた人材の登用 DXに対応した新型操作盤の開発 	○
調達 梅沢部長 	<ul style="list-style-type: none"> 新基幹システムの導入 資材倉庫の新設 調達基盤を構築する人材 	<ul style="list-style-type: none"> 安定購買、原価低減を主にした業務体制 調達先との情報共有、良好な信頼関係 製品知識・業界動向に精通、調達先・社内とのコミュニケーションの充実 環境負荷低減に寄与 	<ul style="list-style-type: none"> 原材料等の価格高騰・不足および急激な為替変動 調達先の廃業・縮小および生産中止・長納期化 基幹システムの老朽化・日常業務の負荷大 	<ul style="list-style-type: none"> 集中購買・分散購買による原価低減とリスク回避 設計部門と協業した機能購買の推進 持続可能なサプライチェーンの再考 新システムによるペーパーレス・PDM化他 	<ul style="list-style-type: none"> 原価低減⇒2022年度達成率：約70% 2023年度達成率：約90%(見込) サプライチェーンの再考⇒実施中 新システム⇒新システムへ移行済、ペーパーレスに向けEDI等へ移行中 EDI移行 2022年度：約50%、2023年度約80% 	△
製造 山田工場長 	<ul style="list-style-type: none"> 最新ファイバーレーザー加工機3台、出荷用倉庫2棟 素材の一次加工から製缶溶接・機械加工・仕上組立・試運転まで一貫した自社製品の技術、技能と生産管理・出荷管理 	<ul style="list-style-type: none"> 更なる生産性向上10%UP 柔軟な多品種短納期対応の推進 品質向上と製造原価低減の両立 タイ現地法人NICの安定黒字化 宇部興機、松田機工などとのシナジー 	<ul style="list-style-type: none"> 更なる生産性向上10%UP 柔軟な多品種、向け先対応生産の拡充 品質向上と製造原価低減の両立 タイ現地法人NICの安定黒字化 	<ul style="list-style-type: none"> 本社工場の製造工場建屋増築 老朽設備の更新 工場レイアウトの再構築 多能工化の推進 外国人技能実習生の活用 	<ul style="list-style-type: none"> 人材ローテーション実施の継続 若手班長登用による活性化を継続 環境配慮型工場を建設中(2024年秋竣工) 宇部興機などとの協業 	○
施工 野口課長 	<ul style="list-style-type: none"> 施工技術者20名。うち現場管理技術者8名、主任技術者17名 全国の協力工事店 組立から運転調整まで一貫通貫体制 	<ul style="list-style-type: none"> 施工技術者50名(従来比+20名) 現場管理技術者、主任技術者を増強し、あらゆるプラント設置工事を担う 工事計画、安全書類等をデジタル化し誰もが出来る体制 	<ul style="list-style-type: none"> 安全作業かつ安全指導への対応 新規協力工事店の発掘、他部署との連携 設計/施工段階で施行しやすい構造 	<ul style="list-style-type: none"> 工事計画、安全書類のデジタル化(WEB化、WEB上での作業) 施工しやすいユニット構造、社内完成度向上 安全作業できる構造設計の推進 積極的に全国工事店と交渉 	<ul style="list-style-type: none"> 製品完成度向上、安全に施工できる仕組み作り 工事工程の見直しへの取り組み 新規工事店2社、更なる協力業者発掘への取り組み継続 施工技術者の増加 	○
メンテナンス 曾根企画部長 	<ul style="list-style-type: none"> サービスマン120名 フロント業務移管、組織の強化 現場安全管理、機械管理システムの構築 	<ul style="list-style-type: none"> アセットマネジメントによるプラント管理 運用サービス開始 カスタマーサポートのグローバル対応 	<ul style="list-style-type: none"> アフターメンテナンスからピフォアメンテナンスへの展開 現場対応人材獲得 プラント稼働の遠隔管理、稼働データを活用した予防予知への対応 	<ul style="list-style-type: none"> 次世代検診による予知保全、次世代型予防・予知保全移行推進 人員採用と緊急修理削減、分業化での効率化 協力工場での実運用開始しブラッシュアップ 	<ul style="list-style-type: none"> APユーザー10件 BPユーザー25件契約済、以後年20件の契約見込み エリアフロント担当設置予定 データ監視運用開始 	△



日工グループの事業活動とバリューチェーン

日工グループの事業は、殆どがB to Bであり、お客様は道路舗装会社やインフラ・建設関連などです。事業区分としては、アスファルトプラント（AP）関連事業、コンクリートプラント（BP）関連事業、環境及び搬送関連事業、その他事業からなります。海外売上高は14.7%を占めており、中国が多くなっています。

各事業部には生産、販売、技術の機能があり、顧客から直接受注するものと代理店を通して受注するものがあります。その多くを占める受注品はお客様との打ち合わせ後に見積りを出して、契約した後に設計、生産、調達、施工、納品、代金回収、メンテナンスサービスのビジネスバリューチェーンからなります。日工グループのバリューチェーンには、安心・安全、品質、コンプライアンスなどが基準として組み込まれており、これらに独自の事業活動を組み合わせることで、お客様との価値協創につながっています。

お客様からのフィードバック

価値協創基盤の強化には、お客様に納入させて頂いたプラントや機械の満足度や改善点について、ご意見・ご要望をお聞きし、製品・サービスの品質向上や開発に繋げる必要があります。また、お客様のプラントに対応した操作や技術に対する管理者や技術者要請のため、オペレータ研修会も定期的を実施しています。

A もともと、S&Bは柴田会長と2028年までに実行する計画を持っていました。2020年の春、以前から購入予定であった隣接した北側の土地を購入し、これを機に将来に向けた新プラント計画図の作成を日工様に依頼しました。しかし新プラント計画図で、希望する内容のプラント建設が厳しい状況であることが分かり、内容を変更することとなりました。2020年の冬、隣接した東側の土地を購入できることとなり、S&Bを決断しました。そして2021年春、再び新プラント建設の計画図を日工様に作成を依頼し、外観図が決定、本格的にS&B実行へ向けての行動を開始しました。その後、2023年2月1日に新BPの稼働が開始されました。

Q 建設に際して、配慮した事は何でしょうか？採用された設備の感想もお願いします。

A お得意先へご迷惑をかけないよう、既存プラントから出荷をしながら工事を着工し、プラント休止期間を短くすることに配慮しました。セメント輸送管までプラント機内に納めましたが、配管を建屋内に納めることによって、点検作業が安易になり交換作業も安全に出来る様になりました。また、配管が摩耗により穴が空いても、地域の方々にご迷惑かけることがありません。

こちらの要望を沢山採用した設備になっていますので、満足するプラントに仕上がっています。今後、更に良いプラントになるように維持管理をしたいと思っています。

Q 学生の工場見学会などリクルート活動に熱心だと伺いましたが？

A 弊社も従業員の超高齢化が進んでいます。世代交代や、会社を維持していくためには若者の採用が必要です。学生達へ就職先を選んで頂けるように、生コン業界や工場につ

いて高等学校等へ訪問をしています。未だに、生コン業界はキツイ/汚い/休みがないイメージを学生は持っていますので、新BP工場見学へ来て頂けるように、計画を立てています。

Q 最後に日工に対してのご意見、ご要望をお聞かせください。

A ハード、ソフト共により使いやすく、管理しやすい工場にしていく為、日工様には様々な意見交換が出来る体制を整えて欲しいと思います。

あるアスファルトタンク不足や環境への配慮など様々な課題がありました。以上を踏まえて、「油煙等地域環境への負荷軽減」や「再生骨材の混入率をアップ」と「燃費改善によるCO₂排出量削減」を実現し、SDGsの理念である「社会的持続的な発展」に資するため、建て替えを実行すべき時期と判断しました。

Q 日工製のVPIIIを採用頂いた理由は何でしょうか？

A 敷地条件的に限られたスペース内で建替計画を行う場合、VPIIIは省スペースで設置出来る事が一番の採用理由になります。今回、省スペースで設置が可能となった事により、アスファルトタンクの増加や新たに再生添加剤タンクの設置が実現しました。また、仕様面では安全性能の向上や労働環境改善など当社のニーズにあった機種であり、VP IIIを選定しました。

Q 今回の建て替え工事で苦勞された点は何でしょうか？

A 敷地が狭く、形状の問題や既存の建築物も流用する事で、場内導線も含めて配置計画に苦勞しました。安全かつ効率的な運営を重視し、日工様の営業担当者や設計担当者とも何度も配置の検討をさせて頂きました。

Q VPIIIが完成してみても感想、日工に対しての意見や要望はありますか？

A おかげさまで、無事にVPIIIが完成する事ができました。工事期間中は安全管理に徹底し、無事故、無災害で終了した事に感謝しています。今後は当社もより一層地域の発展に寄与していく所存であり、今まで以上にお力添えをお願いします。

VP IIIは不慣れな所が多くあり、日工様に適切なアドバイスをお願いしたいと思います。また、メンテナンスや故障時には、今まで以上にバックアップして頂くことを希望します。



お客様の声
2
大旺新洋株式会社様

大旺新洋株式会社は、土佐が生んだ維新の英雄である坂本龍馬生誕の地として有名な高知県高知市にあります。今回、VP IIIの導入を終えた高知合材センターを訪問し、建て替えに関して苦勞されたことなどお聞きしました。

Q プラント建て替えを計画した経緯を教えてください

A 当社の旧プラントは操業から35年程度経過して老朽化が進んでおり、メンテナンスコストが年々増加していた状況でした。また、旧再生プラントの能力不足、附属装置で